



# Toho

東邦キャンパス

# Campus

vol.143

2026年(令和8年)1月発行

発行 学校法人 東邦学園 〒465-8515名古屋市長東区平和が丘三丁目11番地 TEL 052 (782) 1241 FAX 052 (781) 0931

HP [東邦学園](#) [愛知東邦大学](#) [東邦高等学校](#)

## 女子サッカー インカレ3位

愛知東邦大学女子サッカー部が全日本大学女子サッカー選手権大会(インカレ)で初の全国3位と躍進しました。東海大会を1位で通過し、2回戦を勝利し、準々決勝で強豪をPK戦で破りベスト4。準決勝で敗れましたが、輝かしい成果です。4年生を中心に攻守によくまとまり、繋ぐサッカーで上位に駆け上りました。



## 2年ぶりに東邦納涼音楽祭



「第12回東邦納涼音楽祭」が8月30日、2年ぶりに東邦高校で開かれました。涼しい体育館で、市民や関係者ら500人が東邦マーチングバンド

(TMB)などの華やかな演奏を楽しみました。

# 目次

# 年頭所感



## 今を「戦前」とさせないオトナの国に—— 熱狂を戒める「謙虚の奨め」

学園理事長  
榎 直樹

新年おめでとうございます。

年頭に当たって上記の表題を掲げたのは、近い将来に「今年」を振り返った時、「2026年は戦争に向かう前だった」と歴史に記憶される事態に至らせてはならないと願うからです。世界は専制的指導者の行状に揺さぶられています。ロシアによる国際ルール無視のウクライナ侵攻、パレスチナ自治区へのイスラエルの無差別攻撃。トランプ大統領は米国の安全を損なったとしてベネズエラの大統領に退陣を迫り、拒否されると軍事力で大統領を米国まで拘引し、石油利権までほしいままにするあり様です。

さらに危惧するのは、日中・中台関係の険悪化です。昨秋以来、日中は一触即発の事態に直面し、昨年末には中国が台湾を取り囲む大規模軍事演習を実施しました。中国は強硬化する理由の一つに、高市首相の台湾有事に絡む「存立危機事態」発言を挙げています。これ以上緊迫化するのか、大きく左右するのは「世論」です。歴史の教訓が示しています。

20世紀の日本を辿ると、日露戦争後の和平策を交わしたポーツマス条約に日本国内で不満が高まり、暴動に発展した日比谷焼打事件(1905年)、日本の国際的孤立を決定的にしながら国民は大歓迎した国際聯盟脱退(1933年)は、日本が針路を誤る大きな岐路でした。背景には偏狭な世論の熱狂がありました。

歴史小説家として名高い司馬遼太郎(1923～

1996年)は著作『ロシアについて』の中で、近代化していく日本の過程を、次のように分析しています。

「謙虚というのはいい。内に自己を知り、自己の中のなにがしかのよさに拠りどころをもちつつ、他者のよさや立場を大きく認めるという精神の一表現である。明治期の筋のいいオトナたちのほとんどは、国家を考える上でも、そういう気分をもっていた」

「日露戦争のあと、他国に対する日本人の感覚に変質がみとめられるようになった。在来保有していたおびえが倨傲(きょごう)にかわった。謙虚も影をひそめた。江戸期以来の精神の系譜に属するひとびとが死んだり、隠退したりして、教育機関と試験制度による人間が、あらゆる分野を占めた」「官僚であれ軍人であれ、このあたらしい人達は、わが身ひとつの出世ということが軸になっていた。かれらは、自分たちが愛国者だと思っていた」

昨年暮の世論調査(毎日新聞)によれば、日本の対中政策について「もっと中国に厳しく対応すべきだ」が55%を占め、「中国にはもっと柔軟に対応すべきだ」(24%)、「わからない」(19%)を大きく上回りました。暴力が民主主義を押しよせ、愛国が声高になりがちな時代、説得力に乏しいとしても、司馬の言葉をかみしめ、少なくとも私たちは熱狂を戒め、謙虚さをもつオトナの国でありたいと願います。

# 年頭所感



## オンリーワンを、 ひとりに一つ。

愛知東邦大学長  
鵜飼 裕之

皆さま、お健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年、愛知東邦大学は創設25年周年を迎えます。これまで皆さまから賜りましたご厚情に感謝申し上げます。これからも、長期ビジョン“AICHI-TOHO NEXT CHALLENGE 2030”の下で「ひとり一人の個性を磨き、地域・世界へと繋がる共感力を育む人材育成の拠点形成」をめざし、一步一步確実に前進してまいります。

大学は、知識やスキルを習得し、個人としての成長を促す学びと育成の場です。学生は多様な経験を通じて自己理解を深め、将来の方向性を見出すことができます。また、大学は個々の興味や情熱を追求し、自己実現を促す場でもあります。本学では「オンリーワンを、ひとりに一つ。」の基本理念の下で、教育方針として、「ひとり一人の英知と技能を育てるテーラーメイド教育」を進め、学生ひとり一人の個性、成長にあわせた最適な指導を教育データに基づいて提供しています。本学の教職員は学生と真摯に向き合い信頼関係を醸成し、個々に眠っている才能や能力を引き出し、豊かな感受性を育む教育に全力で取り組んでいます。それが、本学の掲げるブランドシンボル「二本のオレンジライン」です。力強くあたたかな二つのラインは、自立した学生と教職員を表します。双方の中心に生まれた無垢のラインは、両者が向き合い、信頼関係を築く中で磨かれていくオンリーワンの力や経験を表現しています。そして、それは進むべき一本の道にもなります。

本学では、学生に内在する才能と能力を引き出し、伸ばし、豊かな感性を育む教育を実現するために、教育システムの刷新と教育環境の充実はかっています。2025年4月に、経営学部では、現代社会の様々な問題に対して課題を発見し、解決する方法をマーケティングの実例や実践から学ぶ経営学の基盤を学ぶ「ビジネス学科」と新たなコンセプトに基づく「コミュニケーション・デザイン学科」を開設しました。コミュニケーション・デザイン学科は、他大学に先駆けて新設した、多様な社会において効果的な情報発信と人々のつながりを創出するスキルを養う学科です。2026年4月には、人間健康学部にてデータサイエンスを基盤技術として、スポーツ科学、心理学、健康情報に関わる専門分野を選択的に学ぶコースを開設します。コンセプトは“Science and Information for Human Wellness”です。教育学部では、教員養成コースにおいて、小学校教員一種免許に加え、中学校教員(保健・体育)一種免許も取得できるようになりました。様々な教育現場での体験型学習を通じて、現場対応力や子ども一人ひとりに寄り添う心、そして豊かな表現力をもった“先生”を育成します。そして、教育環境を整備し、新キャンパスの建設を計画しています。コロナ禍の中で普及したリモートを併用したハイブリッド型授業に対応し、PCを開いたところが教室となるオープンアクセス時代のクラスルームを備えた次世代キャンパスを構想しています。

愛知東邦大学は、不断に改革を進めることで次の25年をめざして進化してまいります。今後とも引き続き、皆さまのご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 年頭所感



## 挑戦と飛躍の 年に

東邦高等学校校長  
藤本 紀子

新年明けましておめでとうございます。

さて今年は何年です。何年は古来よりどんな年と言われているのか？インターネットで検索してみると、AIがまとめた回答が瞬時に提示されます。曰く「エネルギーと行動力が高まり、挑戦と飛躍の年。それだけに冷静さとバランスが必要な年である」とのこと。なるほど、出典も明らかで十分な回答です。

事ほど左様に、AIのおかげで私たちには「答え」を探す苦勞がなくなりました。私は大学時代、国文学科で学んでおりましたが、文献を調べて用例を探すという作業に相当な時間を費やしていたことを思い出します。しかしその作業は決して面倒ではなく、むしろ課題や疑問と向き合うことのできる、静謐で楽しい思考の時間であったと記憶しています。今の学生はその時間を味わうことがないであろうことを、効率的で羨ましいと思う反面、少し残念にも思うのは私だけでしょうか。

「ネガティブ・ケイパビリティ」という言葉があります。「答えが出ない状況や不確実性に耐

える能力」の意味です。「グレー・ゾーンに耐える力」とも言えます。

「すぐに答えが出せず、先の見通しが立たない宙ぶらりんの状態」「矛盾を抱えながら進むこと」は私たちの生活において決して少なくありません。その時私たちは、モヤモヤした気持ちや葛藤を抱えながら、すぐには答えの出ない課題に立ち向かうことになります。自問自答が繰り返され、試行錯誤が続くことでしょう。ひょっとしたら答えは出ず、ずっとモヤモヤ、葛藤が続くかもしれません。それを投げ出さず、課題に向き合い続ける。これこそがまさにAIにない「人間らしさ」だと私は思います。

さて今年は何年、「挑戦と飛躍」の年です。

生徒の皆さんの飛躍の土台となり、一人ひとりの挑戦を支える東邦高等学校であり続けるために、私たち教職員も様々な課題に向き合い、挑戦を続けてまいります。

本年も東邦高等学校の教育活動にご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



# 東邦学園の60年 映像フィルム見つかる

東邦高校の書庫の奥からこんな映画フィルムが見つかりました。タイトルは「東邦学園60年の歩み」です。上映時間は28分。東邦学園の60周年にあたる1983(昭和58)年当時の学園の様子や関係者のインタビュー、創立時代から60年にわたる写真や関係者らが映っています。



制作したのは、東邦高校の卒業生(20期)の熊田英明さん。カメラマンとして映画制作などに関わり、当時は東京で「キーノ企画」(現・キノックス)という映像会社を立ち上げていました。学園と相談しながら内容を詰め、学園60年の歩みを残すとともに、生徒募集などに利用するために作ったそうです。熊田さんは1年ほどかけ何度も名古屋を訪

れ、映像を撮り溜めしていきました。最初に流れる空撮シーンも、自らカメラを抱えて飛行機から撮ったそうです。完成後に同窓会主催の60周年記念パーティーがあった際に上映されました。しかし、理由は分かりませんが、その後は生徒や教員らに見せることもなく「お蔵入り」になっていました。熊田さんは今回の「再発見」の報に、「ちょっと古臭いけど、懐かしい映像も多く、できるだけ多くの人に見てほしい」と話していました。

発見当初、フィルムケースの中からは酢のような酸性系の臭いがしました。高校の担当者から「こんなものが見つかったので学園広報で持ってもらえないか」と新たな百年事務局・広報室に相談がありました。広報室の担当者は「劣化が進んでいるかも」と感じたと言います。中身はどうなっているだろう、観られるのだろうかと考え、劣化していた時の修復を含め、デジタル化を中日カラー本店に依頼しました。担当者は「ある程度古いと臭いも仕方ないものです。一番困るのは劣化して巻いてあるフィルムが上下で癒着していることです。またポロポロと剥がれ落ちることもあります。でも開けてみ





ると臭いはしましたが、フィルム本体はしっかりして意外に良い状態でした」と話します。修復せずにDVDにすることができました。

フィルムはこんな内容です。映像は当時の最寄り駅だった地下鉄・星が丘駅の風景から始まります。名古屋城など当時の名古屋中心部や平和公園などの空撮が入り、創立者の下出民義先生はじめ、創立当時の赤萩(現在のJR千種駅あたり)の校舎など東邦学園の歩みが写真で紹介されています。

続いて古いOBである東邦会の林伊佐武元会長と元通産大臣の江崎真澄さんの対談になります。江崎さんは下出先生の言葉を引用し「飛び切りの一番にならなくてもいいよと下出先生はおっしゃられた。それは特長をのぼすことじゃないでしょうか」と、現在の愛知東邦大学の「オンリーワンを一人に一つ」と同じ趣旨の発言をしています。

話題は戦時中に移ります。旧制最後の卒業生として登場するのは、俳優の天知茂さんです。学徒動員で工場に派遣されて米軍の爆撃に合ったことを「九死に一生を得た体験です」と淡々とした口調で語っています。

東海地方に大きな被害をもたらした伊勢湾台風(1959年・昭和34年)の際にボランティアをしたというOBの話もありました。全学をあげて被災者の救援活動をしたそうです。

### クラブ活動

が盛んだった東邦高校。剣道部、バレーボール部、空手部、水泳部などの映像がありました。やはり東邦高校の代表は野球部です。プロ野球読売ジャイアンツで活躍した山倉和博さんが練習や甲子園での思い出を語っています。グラウンドでの練習風景には、ノックをする阪口慶三監督の姿もあります。現在のマーチングバンド部に続く吹奏楽部の演奏風景も収められています。

また生徒を支える父母の姿もあり、PTA・地区懇談会の話し合いの様子や、学園祭名物の「東邦きしめん」を作るシーンもありました。赤萩校舎の大壁画や学習合宿などの映像も挟み込まれていました。

東邦高校はまだ男子校時代ですが、開学から18年を迎えた東邦短大の映像も残っています。授業風景では大教室いっぱいの女子学生の中で肩身を狭くしている数人の男子学生や、初代の隈山馨学長が当時の思い出をインタビューで答えています。

最後は東邦高校の校歌に合わせ、白馬登山や体育祭のシーンが重ねられています。

映像を見終わった榊直樹理事長は「知らないシーンも多くありましたが、古いOBの方も出演されていて、当時を懐かしいと感じさせる映像ばかりでした」と話していました。



# 東邦の夏、愛知県の夏、 異例の友情応援が育んだ心

～メディア露出するまでの物語(ノンフィクション)～

2025年8月11日。甲子園球場1塁側アルプス席。  
響き渡る「We are」の声。それに続くコールは「CHUO」。  
そう、私たちは全力で「豊橋中央高校」を応援していたのである。  
マーチングバンド部監督 白谷 峰人

7月27日

今年こそ野球部と一緒に甲子園へ。勝ち進むにつれて演奏も振付も洗練されてきた。魂のこもった応援演奏になってきている。絶対に勝つ。勝てる応援ができる。そう意気込んで臨んだ決勝戦。最後の瞬間まで負ける気はしなかった。危ない場面もあったが絶対勝つ、と思っていた。しかし、野球の神様は我々に微笑んではくれなかった。

7月28日

野球応援を振り返る。何が足りなかったのか。もっとできることはなかったか。次はどうすべきか。

もし勝っていたら…と考えるのはやめよう。持てる力を出し尽くしたはず。

豊橋中央高校・萩本将光監督の優勝インタビューの冒頭部分「東邦のすばらしい応援に負けそうでした」に救われる。

7月29日

N県の代表校から甲子園での友情応援のオファーが入る。甲子園出場常連の伝統校だ。バンドも一流。念のため豊橋の動向も確認。県内での友情応援の依頼はないということを確認。準備を進める。

7月30日

ところが、大どんでん返し。豊橋中央高校から友情応援のオファーあり。部員と共有。意思確認。OKの返事。取材オファー対応。N県代表友情応援のお断りと代替校の紹介。

7月31日

豊橋中央高校から野球部コーチと応援担当野球部員3名が来校。白谷と部員3名で顔合わせ。萩本監督以下、野球部の総意で友情応援をお願いしたいとの熱烈オファー。各メディア取材攻勢。応援曲リクエストのリストをもらう。



この後は皆さんご存じの通り、各メディア・SNS等で大変話題になり、一躍時の人となりました。

東邦の夢を打ち砕いた豊橋中央の友情応援。様々な葛藤があったが、それでも同じ夢に向かって頑張っている同世代の仲間の想いに共感し、応えた部員たちを誇りに思う。

一回り大きく成長した夏だった。

2026年の夏は、甲子園で「We are TOHO」と叫びたい！

# Ⅱ 高校／ニュース・トピックス

## 2025文化祭 「戦後80年」の節目の年に

生徒会正顧問 古田 知子

今年の文化祭は、画期的な視点や斬新な企画で新しい文化祭作りに挑戦していきたいという実行委員の強い思いから、春休み中から精力的な討議を重ね、「東邦万博EXPO2025～新化し続ける文化祭～」というテーマを掲げました。

このテーマの下、1学期から企画立案・準備・練習を進めてきて、多彩なクラス企画、クラブ企画、有志企画等が実施されました。模擬店やバザー企画などの売り上げは、「国境なき医師団」や「日本赤十字社」、「ピースあいち」、「くるちの杜100年プロジェクト」、「NPO法人子ども食堂支援センターむすびえ」などに寄付されます。PTA企画でも、「東邦きしめん」をはじめ、バザーや趣味の作品展など大変な賑わいとなりました。

メイン企画となる今年の本部企画は「戦後80年」ということもあり、文化祭実行委員会本部企画局、平和実行委員会、高校生フェス、生徒会の有志の生徒たちが「戦後80年東邦プロジェクト(はちぶろ)」を立ち上げて、連携してひとつの企画をつくることになりました。

「はちぶろ」の生徒たちは、まずピースあいちの語り部である井戸早苗さんの名古屋空襲の体験、中村桂子さんのお父さんの沖縄戦従軍体験を聞き、学びを深めました。また、平和実行委員会の生徒たちが制作した、辰巳会の岡島貞一さんの空襲体験を語り継ぐ絵本「おかちゃんとピース!」をもとにして、名古屋空襲と沖縄戦、米軍基地問題をテーマとした演劇の台本を一から作りました。この「繋ぐ～はちまるから、はじまる～」と題した本部企画は、戦争の記憶をどう語り継いでいくかという問題と、高校生が戦争と平和の問題に取り組む中での葛藤などを表現した作品となり、多くの来場者に見ていただくことができました。

本年度の文化祭を実施するにあたり、ご尽力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。



## バンテリンドームに響いた笑顔と歓声

保健体育科主任 木下 達生

2025年7月8日、東邦高校初となるバンテリンドームでの体育祭が開催されました。8時45分、開門。ドームに入ってくる生徒たちの笑顔がとても印象的でした。これまでは遠いプロ野球の世界でしかなかったバンテリンドームが、その日1日東邦生が躍動する舞台となりました。

これまで毎年、炎天下での開催に苦労してきましたが、今年はその心配もなく、全員が安心して全力を出し切ることができました。滴り落ちる汗は爽やかに、気持ちの良いものになりました。スタンドからの声援も活気があり、ドーム全体が熱気と感動に包まれ、クラス、学年を超えて全校生徒で一体感をつくることができた気がしています。

この特別な一日を実現できたのは、長い準備期間を支えてくださった教職員の皆さん、運営に携わってくれた生徒会と体育祭実行委員の皆さんのおかげです。チーム東邦は最高の仲間でした。この場をお借りして感謝申し上げます。

バンテリンドームでの体育祭は、「全力を出す喜び」と「仲間とつくりあげる感動」、そして「感謝の気持ち」を改めて教えてくれました。この経験を胸に、チーム東邦の教職員・生徒たちは、強い気持ちで次の挑戦へと歩みだします。



## 2025年度パリ研修旅行報告

高校教員 宮田 久

2年生美術科は、11月5日から11日までの7日間、パリへ研修旅行に行きました。パリに到着したその日は、凱旋門やエッフェル塔を見学し、オルセー美術館で見学とスケッチを行いました。

パリ滞在の2日目、この日はいよいよ経路の全長が15km以上にも及ぶというルーブル美術館の見学です。生徒たちの多くが昼食も取らずに、こちらが舌を巻くほどの集中力と熱心さで、時間の許す限り作品と向き合っていました。

パリでの3日目、4日目にはゴッホが晩年を過ごしたオーヴェル・シュル・オワーズや、ピカソ、ルノワールなどが住んだモンマルトル、モネの「睡蓮」が展示されるオランジュリー美術館を訪れ、学びをさらに深めました。また、最終日にはデパートで存分に食事と買い物を楽しんでいました。

日を追うごとに操るフランス語のフレーズも増え、現地で購入したベレー帽を被ってパリの街並みを闊歩する生徒たちの姿は、まぎれもなく芸術家の卵だと言えます。世界有数の作品に触れ、今後の制作活動にもより一層熱が入ることでしょう。最後になりますが、今回の旅行を素晴らしいものにしてくださった添乗員、現地ガイドの方々、そして何より準備や説明会も含めて熱心に関わってくださった保護者の方々に御礼申し上げます。



## Ⅱ 高校／クラブ活動

### 鼎談「アニメ研究部活動報告」

アニメ研究部顧問 加藤 広士

卒業生でアニメーターの服部星花さん、現部長の柴崎彩良さん、顧問の加藤が11月7日にオンラインで対談しました。アニメ研究部の活動がよく分かります。

**服部** 柴崎さん、「東映アニメーション作画アカデミー」合格おめでとうございます！

**柴崎** ありがとうございます！本当に先輩のおかげです。

**加藤** 1年前、服部さんからアドバイスされ、柴崎さんはどのような1年でしたか？

**柴崎** 書類審査のために服部先輩の資料を参考にポートフォリオを何度も作り直しました。そこに載せる作品の順番や、動き、原理など細かな部分までアドバイスいただき、アニメ会社30社に出願し、5社から内定いただくことができました。

**加藤** 柴崎さん、素晴らしい努力でした。服部さん、ご協力本当にありがとうございました。お二人のアニメ研究部の思い出を聞かせてください。

**服部** 部員みんなで「ジョジョ」を鑑賞して大興奮したことです。文化祭で部員の推しキャラを交換してイラストを作成したことも覚えています。

**柴崎** 推し交換は今も継承しています。私の推しキャラはアニメーションにしました。

**服部** 高校美術科の朝デッサン、今も続けます！毎朝1時間はデッサンしています。

**加藤** クラス全体でデッサンしていましたが、コロナ禍で中断されてしまいました。

**柴崎** どんなデッサンをしているのですか。

**服部** アニメーターとしていろいろな物を描くので、その時々で上達したい物を描いています。天才的なアニメーターさんと一緒に働いているので触発されます。

**加藤** 制作は作者を成長させてくれますね。お二人の今後の目標があれば。

**服部** 私の目標は監督になることです。

**柴崎** 絶対なってください。私は3年以内に「動画検査」になることです。

**服部** 絶対なれると思います！今度は東京でお会いしましょう。

**加藤** 最後にアニメ研究部の後輩たちに一言お願いします。

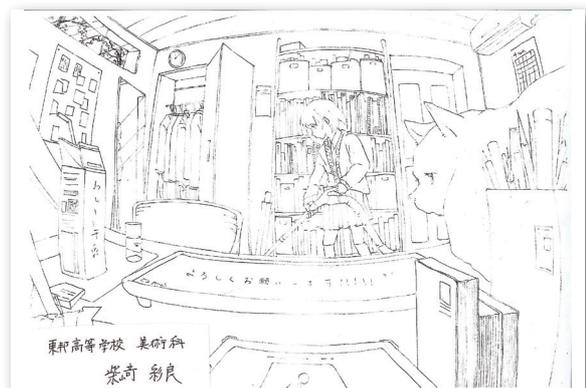
**服部** 絵を描くことが辛い時期もあったので、楽しむことを一番大事にしています。今は天職に就きとても楽しいです。もし皆さんが描けない時が来たら無理して描かずに、描きたい時が来たら全力で描いてほしいです。

**柴崎** 何事も行動に移してみしてほしいです。進学するかアニメーターになるか本当に迷いましたが、いずれにしても全力で挑戦することが大切だと思います。何度も辛い思いをしましたが、服部先輩はじめ周囲に支えてもらい選択できました。

**加藤** 生き方を自分で決めることが大事ですね。貴重なお話を本当にありがとうございました。今後も良い作品を追求して、ますますのご活躍を願っております。



©服部星花 2021年制作



©柴崎彩良 2025年制作

## つながりを大切に進む新体制ダンス部

ダンス部顧問 大橋 由紀

本校ダンス部は、生徒自身が作品をつくり上げることを大切にしながら、大会チームと地域行事・学校行事で発表を行うイベントチームに分かれて活動しています。9月に3年生が引退し新体制となってからは、1・2年生が中心となり、部全体がより良い方向へ進めるよう力を尽くしてきました。



新体制での最初の大きな挑戦となったのが「ダンスドリル秋季競技大会」です。4部門とソロにエントリーし、複数作品を掛け持ちする生徒も多い中で、振付やフォーメーションをそろえながら練習を積み重ねました。同じ時期には、オータムフェスや介護施設での発表など多くのイベントにも参加し、メンバーが入れ替わる場面でも、その場に合わせた表現を工夫しながら、観客の皆さまに楽しんでいただける演技を届けました。大会チームとイベントチームが互いを支え合い、本番を応援し合う姿も見られ、新体制としてのまとまりが少しずつ生まれてきたように感じています。

“One for All, All for One”を大切に、今年度も生徒同士が互いに支え合いながら成長してきました。先輩の思いも自然に受け継ぎつつ、これからも前向きに取り組んでまいりますので、応援をよろしくお願いいたします。

## 初の東海大会出場～自ら考え練習する～

ソフトテニス部女子顧問 遠山 拓

ソフトテニス部女子の顧問は今年度3人いますが、3人とも決してソフトテニスを1から100まで教えられるスペシャリストではありません。強豪校は、顧問主導で指示をして鍛え上げることが多いと思いますが、私たちの目指すところはそういう部活ではありません。顧問の指示がないと動けない、顧問の顔色を伺ってプレーをするといった選手ではなく、自ら考えて必要な練習をし、プレーができる選手を育成し、強豪校に挑んでいくことを目指しています。我々からも経験に基づく提案やアドバイスをすることもありますが、生徒が中心となって練習をすることがメインです。我々は生徒が「やりたい」「こうしたい」という希望を叶えられるようできるだけ環境を整え、応援することがやりがいとなっています。この取り組みが実を結び、今年度の総合体育大会において初めて個人戦で東海大会に出場しました。これは顧問ではなく、彼女たちの力です。彼女たちが自ら考えて練習し、プレーして勝ち取った成果です。再び東海大会に出場できるよう、我々はこれからも生徒を応援し続けていきます。



# 大学／ニュース・トピックス

## 「雲外蒼天」をテーマに大学祭



和丘祭実行委員長

経営学部2年 鈴木 颯天

2025年度の和丘祭は「雲外

蒼天」をテーマに11月8、9日に開かれました。2年生が運営の主体となる新しい体制での開催となりました。初めての試みに不安もありましたが、当日は学生一人ひとりが役割を果たし、活気にあふれた2日間となりました。

1日目は晴天に恵まれ、朝から多くの来場者にお越しいただきました。会場では模擬店の呼び込みや学部企画、フォトスポットなど、それぞれの担当部署が工夫を凝らした運営を行い、実行委員のみんなが主体的に動く姿が目立ちました。ステージではサークルの皆さんによるパフォーマンスが披露され、メインゲストとしてお迎えした「土佐兄弟」さん、「四千頭身」さんのステージには多くのお客様が足を運んでくださり、大いに盛り上がりました。

その一方で、模擬店での対応やステージの進行、近隣住民の方からの連絡への対応など、想定外の事態もありました。しかし、各部署と本部が連携し合い、状況を把握しながら落ち着いて対処することができました。実行委員が自ら判断し、協力して問題解決にあたる姿は非常に頼もしく感じられました。

2日目は雨に見舞われましたが、悪天候にも負けず、実行委員は臨機応変に運営方法を調整し、模擬店や室内企画を中心にさらなる盛り上がりを見せました。新たな取り組みとして実施したアイドルの物販企画も多くの方にご参加いただき、新しい形の交流として好評を得ました。

2日間を通して、実行委員は慣れない状況にも関わらず、互いに支え合いながら運営に取り組みました。会場の随所で笑顔が溢れ、学生の力で作り上げた大学祭として多くの来場者の皆さまに楽しんでいただくことができたと思っています。



## 学習ポートフォリオ「TOHO コンパス」誕生

愛知東邦大学副学長 船木 恵一

昨年9月、愛知東邦大学は、学生の学習成果の可視化と主体的学習を支援するため、学習ポートフォリオ(ソフトウェア)「TOHOコンパス」を導入しました。

このツールは、単に成績を可視化するだけでなく、学生生活の指針(コンパス)となることを目指しています。GPAやディプロマポリシーに基づく学習成果の可視化に加え、今後は課外活動やボランティア、海外研修といった学生個人の多様な体験を写真データ等で記録・保管できる機能を拡張し、学生一人ひとりの個性(オリジナリティ)を反映したポートフォリオの作成を促します。これにより、就職活動時のサプリメントとしても活用できることを想定しています。

学生による自主的な入力(学習計画、自己評価、活動レポートなど)を促進するため、入力行動等に基づき自動的に褒賞を与えるバッジ機能(ゲーミフィケーション要素)の導入も検討しており、楽しみながらポートフォリオを充実させる行動を促します。

「コンパス」は、学生が自らを客観視し、主体的な行動を促すためのツールとして、教職員と学生の共同作業を通じて、学生生活をより充実させるための強力な指針となるよう、その機能発展に尽力してまいります。皆様のご理解とご期待をお願い申し上げます。

# 大学／ニュース・トピックス・クラブ活動

## 海外研修で広がった視野



経営学部1年 石原 海奈

愛知東邦大学の国際交流センター開講科目「海外研修B」で、2025年9月4日から17日までの2週間、中国の上海市と杭州市でのインターンシップと文化交流に参加しました。参加のきっかけは、中学生の時に訪れた台湾で漢字フォントやパッケージデザインに魅力を感じ、「中国なら、さらに新しい発見があるのでは」と思ったことです。国際交流センターに相談したところ、本学と

提携する東息教育集团(現・東息教育文化)を紹介していただき、参加することができました。

上海では精密部品を製造する昊佰を訪問し、ものづくりに対する高い技術力に触れました。また上海美術館や文化と歴史のテーマパーク「上海千古情」を鑑賞し、迫力ある表現力から多くの刺激を受けました。杭州では日本語学校の学生と交流し、美術分野を志す仲間の高い技術や熱意に圧倒され、自分自身もより努力したいと感じました。

中国ではEコマース(電子決済)が主流で、生活面でも先進的な仕組みを体験しました。また渡航前は不安もありましたが、現地の方々はとても親切で丁寧に対応してくださり、文化に対する固定概念が大きく変わりました。

今回の研修を支えてくださった現地職員の皆様に心から感謝します。この経験を通して世界が広がり、挑戦する気持ちがさらに強くなりました。今後も視野を広げ続け、学びを深めていきたいです。

## 女子バスケットボール、2部に昇格

キャプテン 人間健康学部3年 越本 彩心

私たち女子バスケットボール部は、2025年度のリーグ戦で2部に昇格を果たしました。そして、今年(2026年度)のリーグ戦でさらに上の1部へ上がることを目標に、日々練習に励んでいます。

2部での試合は、これまでより厳しい戦いになると思います。そのため新チームでは、今までより強度を上げて練習に取り組んでいます。選手同士のコミュニケーションをもっと増やしていくことが必要で、些細なことでも話し合い、反省し、次に繋げることで質の高いバスケットをすることを目指しています。

チーム内の雰囲気は、先輩後輩関係なく、たわいもない話もできる関係だと思っています。練習中は集中した雰囲気ですが、練習後は切り替えて、オフや部活の行事などの際は全力で楽しんでいます!!プライベートの時間もあるので、充実した大学生活も送ることができています!

チーム全員で同じ目標に向かい、応援してくださっている方のためにも、結果を出せるように頑張っていきます!



## 大学／クラブ活動

### 轍

#### 軽音楽サークル 4年 巴月 優賢

軽音楽サークルは非常に自由で、好きなことを、好きなときに、好きなだけやらせていただける、そんな組織です。その代表を3年後期から4年の前期まで務めてまいりました。昨年の「和丘祭」での模擬店・舞台発表から、今年の新入生並び既存メンバーのフォローまで、自分なりによくやってきたなと感じています。

自由に活動できる故、準備から本番、そして事後処理までを我々学生が行わなければなりません。ライブ会場の手配に、ライブ当日の段取りを考え、金銭の収支管理の徹底と、苦勞と寄り添いながら歩んできました。多方面にわたる方と関わり、よりよいサークルにするため考え行動してきた日々は、決して悪いものではなかったと思います。昔の自分には縁のないことばかりで、目新しい大学生活では部員のみなどと会えるのを楽しみにしていました。

この4年間で共に音楽をし、時にはぶつかりあった最高の仲間、いつも気に留めてくれた大切な先輩方、一生懸命ついてきてくれた可愛い後輩たち。それから、いつも心を支えてくれている、特別な存在との出会い。これまでリーダー経験がなく、当初は不安でいっぱいでしたが、皆の後押しがあったおかげでここまで成長することができました。軽音楽サークルに入ったからこそ出会えた人たちと、共に過ごした数えきれない思い出は、もう1年だけ残りたいと思うほど心に残っています。



### 男子サッカー 1部昇格



サッカー部は東海学生サッカーリーグ2部で初優勝を飾り、1年間で1部復帰となりました。最終成績は15勝1分2敗で勝ち点46。リーグ戦18試合の総得点は56、総失点は13で、総得失点差は43でした。1試

合の平均得点は3.1、失点は0.7となり、特に後半戦は得点力が一段とアップし、大差の勝利が目立ちました。

昨シーズンに降格を体験した4年生が、チームのけん引役となり「無敗の優勝」を目標に掲げて戦ってきました。無敗は叶いませんでしたが、「最後までよくまとまったお陰で、初のタイトルを取ることができた」と山崎楽久キャプテンは胸を張りました。

氏原良二監督は「攻守に主導的にボールを支配できた。理想とする人とボールを動かすパスサッカーができたことが優勝につながったと思う。夏休みに選手らが必死で頑張った結果、リーグ後半は圧倒的な得点力アップにつながった。来年シーズンは、まずは残留を目標にしっかりやっていきたい」と話しています。1部での活躍を期待したいですね。

## 大学／地域交流

### 広がる多彩な活動

#### 地域・産学連携センター

地域・産学連携センターでは、学生の地域活動を実践的な学びの場と位置付けて支援しています。2025年度も地域のイベントに多くの学生が参加しました。

名東区においては、スポーツ・健康×まちづくり部を中心に、藤が丘駅前で行う「駅スポ!!」に加え、6学区5イベントに学生スタッフとして参加しました。特に藤が丘・本郷・豊が丘学区合同のイベントでは、公益財団法人ペガサス財団からの助成金により新たに「TANO」を取り入れました。これは姿勢測定後に問題点を改善できる運動をゲーム感覚で誰でも楽しく実施できるアクティビティです。

また、恒例の「うるぎトライアルRUN」では、有志により参加ランナーなどのインタビューを交えながら颯爽と走る姿をライブ配信しまし



た。その他にも、連携協定を結んでいる日進市の「なつまつり」には市民ら2000人が集まり、「平和が丘夏まつり」や「東山動植物園地震対策訓練」に学生会などが参加するなど、活動の波は大きくなっています。

これらの取り組みは、ホームページやSNSでの紹介の他、2月6日の「地域と連携した授業・活動報告会」でも発表される予定です。

### 「なつまつり」に2千人

日進市と愛知東邦大学の連携協働事業「なつまつり」が8月3日に開かれ、周辺の住民ら2000人の入場者でにぎわいました。会場はサッカー部と硬式野球部の練習場である日進グラウンドで、人工芝のサッカーグラウンドを中心に、ステージやウォーターゾーン、ふわふわ遊具、各種キッチンカー、協賛企業のブースなどが並びました。

冒頭、鶴飼裕之学長は「大学は今、地域と連携する活動を繰り返しています。会場の学生たちを応援してください」と挨拶。祭りの運営は女子サッカー部と硬式野球部の部員たちが担い、それぞれの持ち場で小さな子供たちを相手に楽しそうに裏方を務めていました。

ステージでは、東邦マーチングバンドの演奏



の他に、ダンスや地元アイドルのライブなどが繰り広げられました。女子サッカー部員によるアイドルダンスも人気でした。

日が沈んでからは盆踊りが始まり、女子サッカー部と硬式野球部員たちが輪の中心で踊りました。市民も輪に加わり、最後はお菓子まきでフィナーレを迎えました。大学と日進市との連携を感じられる一コマでした。

## フレンズ・TOHO 今後の行事予定について

2025年度のフレンズ・TOHOの行事につきましては、昨年6月27日(金)に総会を開催し、ご参加いただいた皆様には、奥野雄貴氏による講演を聴いていただくことができました。

今後の行事につきましても、本会の活動の趣旨を重視し会員の皆様に還元できるものを開催していきたいと考えております。

今後、以下の行事を予定しております、会員の皆様におかれましては是非ともご参加いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

### ◆講演会と名刺交換会

日時：2026年2月13日(金)13：30から

場所：名古屋ガーデンパレス

講演会講師：愛知東邦大学経営学部教授 上條 憲二氏



### ◆2026年度 年次総会・講演会

日時：2026年6月19日(金)※予定

場所：名古屋ガーデンパレス

講演会講師：交渉中

## 東邦学園100周年事業募金のお願い

東邦学園は2023年に創立100周年を迎えました。更なる100年に向けて、東邦高校は「目指す生徒像」を掲げ、「自分で考え自ら行動する生徒 他者と共に歩む生徒 強い心で挑戦する生徒の育成」に努めます。愛知東邦大学は「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」のもと、「人材育成と学術で地域社会の活力を生む創発大学として新たな時代を切り拓く」ことを掲げ、個別重視の「ティーラーメイド教育」に力を注いでまいります。

各事業計画を進めるにあたり、学園としても資金を準備していますが、皆様方からもご寄付をお寄せいただきたくお願い申し上げます。

学生・生徒一人一人を見つめ、それぞれの可能性の芽を育むことを教育の柱に置き、混迷の時代を乗り越えてゆける人材を送り出す教育機関に対し、どうかお力添えをお願いいたします。

◇募金目標額 5億円

◇募金の主な用途 教育環境整備、施設設備の充実、学生・生徒の教育活動への支援

◇お申込期間・金額

【東邦学園創立100周年記念募金】 いよいよ今年度3月末日までとなります。

2021年11月から2026年3月まで

個人：1口5千円、法人：1口10万円

複数口のご協力をお願い致します

(1口未満のご寄付もありがたくお受けいたします)。



◇お手続き・申込方法

学校法人東邦学園の公式Webページにある「ご支援のお願い」の「寄付のお申し込み方法」にある専用入力フォームからお申込み下さい。

募金に関する学園Webページ：<https://www.toho-gakuen.jp/donation>